



JSTだより vol.4

JST支援者限定配信!



バイヨン中学校生徒たちの生活について知りたい! ①

クメール正月が終わった今年4月、中学3年生の女子生徒2人が退学の申請をしました。どちらの生徒も、両親が抱えるローン返済のために働かなければならなくなったというのが理由でした。バイヨン中学校創立以来の5年間の中学校退学者数はすでに**85人**にのぼります。

そういった状況があると知り、ふと、ナイトマーケットや遺跡の売店を見てみると、中学生くらいの子供が働いているのをよく見かけます。バイヨン中学校のあるエリアは、アンコールワットに近いので、観光地の屋台などで働いているバイヨン中学校の生徒たちも多くいるそうです。

また、学校の始業は朝7時ということもあり、朝ご飯を食べてから家を出てくる生徒は少なく、多くの生徒が、休み時間になると裏の売店でお弁当（1500リエル）や軽食（500~1000リエル）、飲み物（500~2500リエル）を買って食べています。この地域では、どの家庭もぎりぎりの生活の中で子供たちを学校に通わせているので、生徒たちが持っている毎日のお金はどのように工面しているのか・・・常々気になっていました。国際的には18才未満の児童労働は禁止されていますが、働かなければ学校で学ぶことさえできない現実がカンボジアにあるのではと、私たちJSTインターン学生は、**バイヨン中学校生徒のアルバイト調査と生活調査**を行うことにしました。

🔍 アルバイト調査

まず行ったのが、誰がどのようなアルバイトを行っているか全体を把握するためのアンケート調査です。中学1年生から3年生までの各クラスを回り、アルバイトや家業の手伝いをしている生徒にアンケートに記入してもらうことにしました。

調査協力者61人の内訳

1年生 32人 / 2年生 10人 / 3年生 19人

4000リエル
=約1ドル

仕事内容

・ 飲食関係	22人
・ お土産販売	19人
・ 農耕関係	7人
・ 服の販売	4人
・ 儀式のための会場を組み立てる	5人
・ 家庭教師	1人
・ 着火剤となる樹液を採集し販売する	1人
・ お土産用のブレスレットを作る	1人
・ 掃除と洗濯	1人

勤務頻度

・ 毎日	14人
・ 週3日以上	3人
・ 週2日	6人
・ 日曜日のみ	36人

収入

・ 日給25,000リエル以上	11人
・ 日給20,000~25,000リエル	23人
・ 日給15,000~20,000リエル	11人
・ 日給10,000~15,000リエル	10人
・ 日給10,000リエル未満	6人

勤務場所

・ 自宅がある村	14人
・ 観光地	41人
・ その他	6人

給料の使い道（複数回答可）

・ 親に渡す	42人
・ 中学校の屋台で使う	22人
・ 学校に必要なものを買う	9人
・ 塾代に充てる	2人

いつから

・ 中学校入学以前から	30人
・ 中学校入学してから	31人

続いて、アンケートを行った何人かに対して、後日、アルバイトをしている場所を訪問してインタビューも行いました。そのうちの何人かを紹介します。

📝 ロム・ダイさん 中学2年生 (16歳)



「私はバコン山のふもとで毎日お土産を売っています。遺跡観光に来た観光客に、マグネットやキーホルダー、ポストカードなどを売っています。午前中の学校の後に塾があり、そのあと夕方からアルバイトをしています。一日の売り上げは5ドルから10ドルで、そのうちの半分がお給料としてもらえます。アルバイトをすると、収入を母にあげたり、好きなものを買ったりできるのでうれしいです。しかし、雨季や観光ローシーズンは観光客が少なく全く売れない日もあるので大変です。将来は、英語のガイドになりたいので、放課後は英語の塾に通っています。」

📝 モーン・セックくん 中学3年生 (19歳)

「僕は両親の手伝いで、午前中の学校が終わったら、毎日畑で農作業を行っています。農耕器具を親が持っているので、依頼があれば、それを貸し出したり、代わりに田畑を機械で耕す仕事です。日給は17,000リエルで、稼いだお金は親に渡しますが、代わりに毎日お小遣いとして1000リエルもらっています。仕事は大体、午後1時ころから6時ころまでで、暗くなるまで働きます。肉体労働なので疲れるし、楽しい仕事ではないですが、僕の家庭はほとんどがこの仕事で得られる収入で成り立っているので、働かなくてはなりません。機械を直したり、使ったりすることが好きなので、将来はエンジニアになりたいです。」



📝 スーン・スレイミッチさん 中学3年生 (16歳)



「私は毎日学校が終わると、家に帰り、母と二人でブレスレットを作っています。1個当たり250リエルでまとめて週一回、買い取り業者に売ります。そのうちの半分が材料費としてかかります。月給としては20ドルほどの稼ぎです。私が住む村には、このようにブレスレットを作っている子がほかにもいるので、その子たちと集まって話しながら作ることが出来るのは楽しいですが、毎日同じものを作っているので飽きます。食事や勉強の隙間時間にブレスレットを作っているので、働く時間は決まっていません。得た収入は、お給料としてもらうのではなく、家の生活費として使われます。毎日母から2000リエルのお小遣いがもらえるので、そのお金で中学校の屋台で食べ物を買っています。将来は中学校の国語の先生になりたいです。」

📝 スロイ・ニャーさん 中学3年生 (16歳)

「私はナイトマーケットのお土産屋さんで毎日働いています。朝7時から12時まで学校で授業を受けた後、家の手伝いをして、夕方5時から夜の11時まで働いています。家からアルバイト先まで、片道30分の道のりをいつもバイクで通っています。夜中の1時に寝て、朝6時に起きます。夜が遅く、朝が早いので大変ですし、ローシーズンは観光客が少ないので、商売が大変です。月給は、月曜日から日曜日まで毎日働いて、100ドルです。卒業後は高校に進学します。」



このように、生徒たちの家庭では、生徒たち自身が、アルバイトとしてだけでなく、家の手伝いとしてお金を稼ぎ、家庭の生計が成り立っているということがわかりました。勉強時間の合間をぬって、働きに出る、もしくは、家業を手伝い、お金を稼ぐというのは、中学生といえども立派な稼ぎ手で、その収入は家族にとって大切な「収入源」になっていることがわかりました。

次に、7月末から水環境調査でアンコールクラウ村を訪問した仙台二華高校の生徒たちに同行させてもらい、バイヨン中学校に通う生徒たちの家を訪問しました。その際に簡単な生活調査を行いましたので紹介します。

キム・ランさん 中学3年生 (17歳)



「私の家は、8人家族で、私は5人姉妹の3番目です。アルバイトはしていませんが、来年度から高校に通うつもりです。姉二人も高校まで出ており、一人は高校卒業後は服飾系の専門学校に通う予定です。飛び級で同じ学年の妹も、新学期からは同じ高校に通う予定です。父はアンコールトム内のお寺でお坊さんをしており、母は小学校で売店を出しながら米焼酎を作って売っています。生活で使用しているのは、井戸水です。家にある井戸から汲んだ水は、鉄のにおいがするため、水浴びや洗濯に使っています。料理に使う水や飲み水は、近所のアンコールクラウ小学校にある井戸から汲んできたものを使っています。こちらの水の方が浄化してあるためきれいで、安心して飲めるからです。将来の夢は、中学校の数学の先生になることです。」



生活についてインタビューをしている様子



キム ランさんの家



チェーン ネットさんの家



庭になっているバナナ



家で飼っている豚

チェーン・ネットさん 中学3年生 (15歳)

「私の家は8人家族です。私は7人兄弟の末っ子で、父は私が小さい時に亡くなりました。そのため、姉は小学校6年生で学校をやめ、働きに出ています。おかげで私は中学校も3年間無事に通いきることが出来、高校へ進学する予定です。姉たちは小学校の高学年で学校をやめました。金銭的な理由と、バイヨン中学校が出来るまでは、中学校まで通うのが遠くて大変だったためです。私自身はアルバイトをしておらず、姉たちの収入で生計を立てています。お金がもしもう少しあれば、勉強にお金をかけたいです。生活には、雨水と井戸水を使用しています。雨水は、水浴びや洗濯に使い、井戸水は、井戸からくみ上げ、簡易的なろ過装置を使用してる過した水を飲み水や料理に使用しています。家の敷地内には、豚や鶏を飼っていたり、ライムやバナナ、グアバや釈迦頭などの植物がなっていたりするので、食べ物に関しては自給自足をしています。将来は中学校の国語の先生になりたいです。」



今回の家庭訪問では、いつもなら知ることが出来ないお話も聞け、生徒たちの生活の現状を知ることが出来ました。チェーン・ネットさんのように、上の兄姉が一生懸命働くことで、下の弟妹が学校に行き、教育を受けることが出来るなど、各家庭の貧困具合により、教育を等しく受けることが出来ない現状がまだまだカンボジアにあるということもわかりました。また、生活には水道ではなく井戸水や雨水を使用していることを知り、蛇口をひねれば安全できれいな水が出てくる日本での生活がいかに幸せか、改めて知りました。

バイヨン中学校の生徒たちが安心して学校に通い、教育を受けることが出来る環境が整う日が一刻も早く来ることを願い、わたしたちインターン生は今後も生徒たちの生活調査を継続していきます。次回もお楽しみに！



バイオン高校に行きたい！！

バイオン中学校の生徒に、卒業後の進路を尋ねると口を揃えて、「バイオン高校に行きたい！」と答えます。実際は、中学卒業後全員が高校に進学するわけではありませんし、バイオン高校も存在しないのですが、これまで生徒たちはルー校長に何度も高校併設を嘆願しているようです。そこで今回は、バイオン高校併設について取材しました。

 バイオン中学校 ルー校長先生

併設への想い

バイオン中学校ではこれまで2回の卒業生を送り出していますが、卒業後遊びにきた生徒から退学した生徒がいるとよく耳にします。詳しい数字がわかりませんが、高校1年生終了時にはバイオン中学校卒業生の約半分が退学をしていると思います。これは非常に残念な事です。バイオン中学校で他国の人と関わり、刺激的な授業を受け、勉強が好きになった生徒たちから教育を奪ってしまうのは勿体無いと感じています。私はそんな生徒に教育を受ける機会をずっと与え続けたいです。そのためバイオン中学校に高校を併設することが出来ないかと考えています。

高校退学の理由について

高校へ通いきれない理由はいくつかあります。まず1つ目は、高校が遠いという理由です。シェムリアップの高校の数は圧倒的に足りていません。バイオン中学校の生徒は、2つの高校を選択する事が出来ます。しかし、高校は遠く自転車で片道1時間以上かかる生徒が多くいます。バイクで通う生徒もいますがガソリン代がかかり、生徒にとって大きな負担になります。2つ目は、保護者の理解不足です。片道1時間の通学、高額なガソリン代のことを考えると、高校に行かず働き手となって家の負担を減らすことを保護者は優先します。そのため勉強したくても、両親の言う事を聞き退学してしまいます。

併設のメリット

バイオン中学校は、周辺5つの村の真ん中に位置しているため、バイオン中学校に高校を併設することによって生徒たちは片道1時間もかからず通学する事が出来ます。また、バイオン中学校では、家庭訪問や保護者への学校説明会などを行ってきた実績があるため、保護者の方に教育の理解を得られると考えています。

併設のための課題

しかし併設は良いことだけではありません。バイオン中学校は教員の数が足りていません。カンボジアの教員は、どの学校で働こうが、お給料は一律で、街から離れた中学校であっても交通費など補助はありません。そのため街から離れた中学校で働いてくれる教員がいません。このように高校を併設した場合、教員問題はさらに深刻な問題になると思います。

生徒の声① ホン・レイさん 中学3年生 (14歳)

高校併設を望む理由は沢山あります。バイオン中学校は、環境の授業が行われているため、ゴミ箱が至る所に設置されゴミ管理を全員が責任持って行っています。そのため学校にゴミが落ちていません。他にも校内に沢山の花や木が植えられており、緑豊かな学校となっています。このような教育が高校でなされているのかわかりませんので、緑が多く綺麗な校舎があるバイオン中学校から卒業したくありません。また高校は家から自転車で1時間以上かかり、通うのが大変です。そのためバイオン中学校に高校ができて欲しいです。

生徒の声② コッ・トウさん 中学3年生 (16歳)

私の兄は、フンセンシェムリアップ高校に通っています。兄は毎日友達のバイクに乗せてもらい通っています。しかし、最近は友達と高校へ行かず遊びに行っているようです。高校の先生は兄の行動を咎めることはありません。バイオン中学校の先生は、教育熱心で生徒に対して全力で接してくれます。私は、そのようなバイオン中学校の先生と離れたくないです。バイオン中学校に高校ができたらかきっと良い高校になると思います。また高校の先生は、時間にルーズで授業をカリキュラム通り行っていないとも聞きます。私は高校に入学してからずっと勉強をしたいので、バイオン高校で勉強したいです。

バイオン中学校教員の声 チョン・リナ先生 (英語 国語担当)

この辺りの子供達が、高校を退学してしまうということはよく聞いています。特に女の子は、高校を退学してしまうと定職に就くことが難しくなってきます。男女が同じ土俵に立つためには教育が必要です。バイオン中学校では、親の理解が得られず中学校に通えなくなってしまった生徒の家庭訪問を随時行っています。校長先生をはじめ先生方は教育の大切さをしっかり理解しています。そのようなバイオン中学校に高校が併設されれば、生徒たちは高校卒業まで通いきれると確信しています。